

RSN

相談内容で変わる紹介先

依存問題の電話対応法6種類を報告

「ばちんこ依存問題相談機関」「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN、西村直之代表理事)は機関紙「さくら通信」第39号(7月22日発行)で、どのような相談に対してどのような施設やグループを紹介しているかの基準を報告した。相談内容は「困ってはいないがやめる方法があるなら知りたい」などととりあえず電話したという人から、「今すぐ、どうにかしたい」という切実な状況の人まで様々。相談員が話を聞いたあとの対応もケースバイケースで、報告では6つのケースに分類されている。

一つ目は相談のみ「紹介先なし」のケースで、相談員が話を聞きながら「問題整理のお手伝いをする」にとどめる。このケースに該当するのは、相談者が依存者「本人の場合」は、「やめるために自分なりに工夫したことがなく、生活の改善などでやめられる可能性がある」場合か「人と接するのが苦手」な人の場合。相談者が「家族・友人の場合」は「問題を持つ本人と話し合うことにより問題が改善する可能性がある」と考えられる場合だ。

次が各都道府県にある相談機関「精神保健福祉センター」を紹介する場合で、同施設では精神保健に関わる相談に電話や面接で応じている。このケースに該当するのは、相談者が「本人」なら「住まいの近くに相互援助グループがない」か「ばちんこ以外に問題があり、その問題から取り組む必要がある」場合。「家族・友人の場合」なら「家族教室などに参加して勉強したい」か、相談員が「ばちんこ以外に問題があり、定期的なケースワーク

が必要」と判断したとき。ケースワークとは対象者が抱える問題を個人や家族が主体的に解決できるように援助すること。

禁パチサイトなど「ウエブページ」を紹介することも

「いわゆる禁パチサイトなど、同じ悩みを抱えている人のブログやフォーラム、掲示板など」の「ウエブページ」を紹介するときもある。これは「本人の場合」だけで、「相互援助グループに繋がる準備段階として」紹介する、あるいは「同じ問題を持つ人はどのようにしているか、誰にも会わずに知りたい」人の場合。ただし、特定のサイトを紹介するのはなく、「自分で探してください」と伝えている。

匿名で参加できる問題を持つ人同士の集まり「相互援助(自助)グループ」を紹介するケースは、「本人」なら「誰にも相談できず1人で問題を抱えている」か「同じ問題を持つ人はどのように解決してい

るか知りたい」という場合。相談者が「家族・友人」なら「のめり込んでいる本人をどうにか変えたい」と思い苦しんでいる」か「ある程度のめり込みに知識があり、家族のケアを望んでいる」場合に紹介する。日本で唯一のギャンブル依存の

「回復施設」は横浜市にある「NPO法人ワンデーポート」だけで、ギャンブルに問題を持っている人の回復を支援し、家族向けのセミナーも開催している。相談者が「本人」なら「休職、退職してでもギャンブルをやめたい」場合。「家族・友人」なら「のめり込みに関する知識を得てほしい」場合か、相談者が「医師や司法書士による専門的な話を希望」しているときに、同施設の家族向けセミナーを紹介する。

精神医学的問題を持ち精神科・心療内科を受診中、あるいは中断中の相談者に対しては、原則主治医のもとに戻るよう勧める。相談者が「本人」なら、該当するのは「現在通院中」か「通院を自己中断し、状態が悪化している」場合。「家族・友人」なら「本人が伝える主治医の話を納得できない場合、家族が主治医に説明を受けることを勧める」。

紹介先の選択基準を報告したのは初めて。業界全体に支援の輪を広げるためにも必要なことだろう。